



としょかんだより 6月号

中野木小学校図書室

どくしょかんそうぶん
読書感想文コンクール

かだいとしょ しょうかい
【課題図書で紹介】

よんでみてね

ていがくねん む
＜低学年向き＞

*『アザラシのアニュー』

あずみむし さく
作

きた うみ こおり うえ
北の海の氷の上で生まれた、タテゴトアザラシのアニュー。おかあさんのお乳を飲み、数日で毛の色が黄色から白に。1週間もすると体重は生まれた時の3倍になる。おかあさんに泳ぎ方も教えてもらう。やがて、アニューはひとりで北極を目指すことになる。

どうしんしゃ
童心社

*『ごめんね でてこい』

ささきみお さく
作

だいす
大好きなおばあちゃんと、しばらく一緒に暮らすことになったはなちゃん。最初は良かったが、あいさつをしっかりすることやおやつの後の歯みがき、お風呂上がりも注意されて、モヤモヤしてしまう。「おばあちゃんなんて、きれい」と言ってしまうが……。

ぶんけんしゅつばん
文研出版

*『おちびさんじゃないよ』

マヤ・マイヤーズ さく
作

ちい おんな こ がっこう おとこ こ てんこう
小さな女の子テンの学校に、マルという男の子が転校してきた。さっそくマルにいじわるを言う子がいた。テンは、いじめっ子を注意する。すると「ちーび」と言い返された。テンは、「あたしは、ちびじゃない！」と言い返すが……。

イマジネーションプラス

*『どうやってできるの？チョコレート』

たむらこうすけ さく
田村孝介 作

かいがい さいばい げんりょう み おどろく おお
海外で栽培される原料のカカオの実には驚く大きさ。カカオとよばれている種を取り出して、乾燥させてから輸入し製造工場へ運ぶ。皮をむいて、砂糖を加えて機械ですりつぶし、型に入れたらいつも見ている板チョコの姿になる。

ひさかたチャイルド

ちゅうがくねん む
＜中学年向き＞

*『いつかの約束』

やまもとえつこ さく
山本悦子 作

みくとゆきな は、自分は9歳だと言うおばあさんに出会い、一緒に町を歩くことになった。後日、ふたりは意外な場所でおばあさんと再会した。おばあさんの9歳の頃と現在の9歳の子どもの生活環境を比較することができる。

いわさきしよてん
岩崎書店

*『じゅげむの夏』

もがみいつぺい さく
最上一平 作

きん 筋ジストロフィーのかっちゃん、やま やま 山ちゃん、シューちゃん、ぼく にん 僕の4人は、てんじんしゅうらく ねんせい 天神集落の4年生。かっちゃんは、「最高の夏休みにしよう！」とみんなによびかける。天神橋からのとびこみ、おばけトチノキを見に行くこと、など様々な体験をして4人の絆が深まっていく。 佼成出版社

*『さようならプラスチック・ストロー』

ディー・ロミート さく
作

ごせんねんいじょうまえ じん 五千年以上前のシュメール人は、ビールをおいしくのむために中が空洞になっている、筆を使い始める。これが、紙になり、その後、プラスチックの新たな使い道としてストローが大量に作られ、消費されることになった。2011年に9歳の男の子が始めた「ストローをなくそう」キャンペーンがおこなわれた。必要ないないものをことわることも心掛けたい。

みつむらきょういくとしよ
光村教育図書

*『聞いて聞いて！音と耳のはなし』

たかつ おさむ えんどうよしと さく
高津 修・遠藤義人 作

にんげん どうぶつ みみ が2つあるのはどうして？「音」「聞く」といった私たちが日々経験していることを、科学的視点から見ることのおもしろさを教えてくれる。

ふくいんかんしよてん
福音館書店

こうがくねん む
＜高学年向き＞

*『ぼくはうそをついた』

にしむら さく
西村すぐり 作

ひろしま す 祖父の兄ミノルが原爆で亡くなったことを知る。原爆で大切な人を亡くした人たちの思いと祈り、それを受ける子どもたちの物語。

ポプラ社

*『ドアのむこうの国へのパスポート』 トンケ・ドラフト/リンテルト・ケロムハウト 作

よ き 読み聞かせが大好きな10人の子供たちは、先生が読んでくれた本の作家の家を訪ねることにした。作家の家には有名な本の国々からできている「コスモポリタン連邦」に続くドアがあり、パスポートと有効なビザがあればドアを通れると言う。

いわなみしよてん
岩波書店

*『図書館がくれた宝物』

ケイト・アルパス さく
作

だい じ せ かい たい せん ちゅう 第二次世界大戦中のロンドンから祖母を亡くした12歳のウィリアム、11歳のエドモンド、9歳のアンナは、学童疎開に行くことになる。弁護士が疎開先で後見人になってくれる家庭をさがすことを提案してきた。

とくましよてん
徳間書店

*『海よ光れ！3・11被災者を励ました学校新聞』

たざわさつき さく
田沢五月 作

2011年3月の東日本大震災、岩手県の大川小学校にも大地震と津波をもたらした。子どもたちは、小学校での避難生活が続く中、「そうだ、学校新聞を作りみんなを元気づけて行こう。」と考えた。

こくとしや
国土社